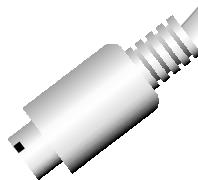




愛知大学情報メディアセンター紀要

Vol.15/No.2 2005.March



情報メディアセンター利用案内

◇サービス時間〈月～土曜日〉

(都合により変更する場合があります。掲示をご覧下さい。)

車道校舎

期 間	K701、K802、K804	メディアゾーン
通常 講 義 定期 試 験	講義利用のみ	9:00～22:00
補 講 集中 講 義		9:00～19:00
上記以外		

豊橋校舎

期 間	420教室 (オープンアクセスルーム)	メディアゾーン (図書館)※1	413教室・421教室・ 423教室・424教室・ 514教室・523教室
通常 講 義 定期 試 験	9:10～21:00	9:10～21:00	講義利用のみ (420 教室の状況により一般利用できます。)
補 講 集中 講 義	9:10～21:00 9:10～19:00	9:10～21:00 9:10～18:30	
上記以外	9:10～19:00	9:10～18:30	

※1 メディアゾーンは、豊橋図書館の運用日程に準じます。

名古屋校舎

期 間	第1・2・3実習室	マルチメディア教室 (中央教室棟)	E201教室 E202教室 (東教室棟)	メディアゾーン (図書館棟2F)※2
通常 講 義 定期 試 験	9:10～19:50	講義利用のみ	9:10～18:10 (E202教室は講義利用のみ)	9:10～20:00
補 講 集中 講 義			休み期間は原則閉室	9:10～19:00
上記以外	9:10～19:00			

※2 メディアゾーンは、名古屋図書館の運用日程に準じます。

■センター閉室日 ／ 日曜日・祝日・夏期休暇期間・年末年始・創立記念日（11/15）・入試期間

◇メールリストサーバ

アドレス	list@aichi-u.ac.jp
subject の記述	meibo (教員), meiboj (職員)
郵送される資料	電子メールアドレス

情報メディアセンターの新しい任務

名古屋情報メディアセンター長 坂東 昌子

情報メディアセンターでは、2004年度から名称が新しくなったと同時に、現状を踏まえてその役割を見直しています。IT化をすすめる流れが大学全体の課題となり、これとともに、情報メディアセンターの業務も、コンピューター機器の管理とその運用と言う狭い枠から、情報メディアを広く見据えた機器管理とその運用、更に教育研究開発活動の方向へとその目標をシフトすることが大切になってきます。早急な対応を要する目標は、①情報関連教育に関わる教員の交流の場を提供すること、②教材作りやメディアを活用した授業の支援体制作り、③教育学術ソフト開発やデータベース構築などプロジェクトを含む研究開発活動もカバーしていく活発な場と資金を提供することです。メディア教育開発室(インキュベートラボ:以下、「ラボ」)は、そのための中心的な場とならなければなりません。

現在までの情報処理センターにも、多くの研究開発の経験がありました。情報処理センターを中心に、教員・情報処理センタースタッフ・情報処理支援要員が、事務室に連続した作業部屋で、情報を交換し、新しいソフトを試したり、大学の情報処理教育の普及のために調査を実施したり、さまざまな活動を行っていましたが、ほとんどボランティア的な活動でした。今回のラボで目指しているのは、学内外からの補助や研究助成を取り入れ、本格的な活動を開始しようと準備を進めています。また一方で新しいカリキュラムに呼応し、情報リテラシー教育も効率的に行う準備に入っています。

さて21世紀を見据えた全学的な「情報メディアセンター構想」では、このラボの設置が重要な役割を果たしますが、この時重要なのは、教育研究の情報化プロジェクトを推進する力量のアップではないかと思います。こうした目標を背景に、2001年度より、センター主導で教育学術コンテンツに関する補助制度が発足しました。これは、教育学術情報データベースの構築、マルチメディアの活用により教育を実施するためのソフトウェア教材の開発、教材・資料の電子化といった教育研究の情報化に対するプロジェクトに対する助成支援制度です。この制度は私立大学等経常費補助金の「教育学術データベース」の申請を前提に確立した制度なのですが、申請件数も徐々に増加して、2005年度には過去最高の8件もの申請がありました。初年度の申請が2件であったことを考えると隔世の感があります。センターとしては、これまでも申請の内容を丁寧に審査し、ますますレベルの高いプロジェクトが芽生え、そしてその成果が皆さんの中に触れて、それがまた交流を広げ、新しいプロジェクトを生み出す流れになるよう努力してきました。今後、ラボの運営が正式に始まるときを迎えるにあたり、これまでのプロジェクトの成果がどんなものであるかを、ラボに提示し、できるだけ多くの皆さんの目に触れて、教員の好奇心や目標設定への意識を高揚し、成果が実ることを願っています。

ラボの活動始動にあたって、今までの運営で不備な点を改善し、今までの成果を見直し、その反省の上に立って新たな改革が必要だと感じています。そのなかで、プロジェクト推進の力量を多くの方々が身につけられれば、おのずとラボの活動も活発になるでしょう。みなさまの関心を高めていただき、ご協力くださるようお願いいたします。

目 次

はじめに 名古屋情報メディアセンター長：坂東 昌子

1. 論文

中国語会話における授業支援システムの試作と評価

—VisualBasic によるマルチメディアシステム HanyuPlayer の構築—

..... 望月 信太・土橋 喜・劉 柏林 1

2. センターだより

1	情報メディアセンターにおける委員会活動	29
2	情報メディアセンター主催行事	31
3	情報メディアセンター委員会構成員	33
4	愛知大学におけるコンピュータウィルスの動向及び対策について (2) ～電子メール編②～	34
5	編集後記	36

原稿募集要項

